

(学校番号087)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岩槻小】

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の定着の個人差が大きい。</p> <p><指導上の課題> 学習展開の中で習得した知識・技能を活用する時間を十分確保すること。</p>	⇒ 指導計画を工夫し、習得した知識・技能を確認・活用する時間を確保する。スクールダッシュボード等を活用して自分の学習履歴を振り返り、自分の立てた計画で学習を進める活動を取り入れる(単元ごと)。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 筋道を立てて説明する力が十分ではない。</p> <p><指導上の課題> 根拠を基にして考えたり説明したりする時間を十分確保すること。</p>	⇒ 自力解決、協働、練り上げの時間それぞれに個別最適な学びと協働的な学びの運動による「学び」を取り入れ、自分の考えをきちんと表現できるようにする。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	「算数」の「数と計算」「変化と関係」領域における、数量の関係から式を選ぶ問題、分速を求める問題に課題が残る。このことから数量関係を求める式、分速の意味理解が不十分であると考えられる。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定的回答の割合は90%であった。主体的な学びの実践を継続していく。
思考・判断・表現	算数「変化と関係」領域における、基準となる条件から時間を考えたり、2つの速さを比較したりする問題に課題がある。問題場面についての理解を共有し、関係性や考えの根拠を説明し合う活動を重視する。そして協働的な学びを通して自分の考えを深め、理解の定着を図っていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	指導計画を工夫し、知識・技能の定着を図る時間を確保してきた。また個に応じて学習プリントや「ドリルパーク」「スタディサプリ」等多様な方法を活用して習熟を図ってきた。そのため全国平均を上回る領域も多い。	学習の定着に個人差があるため、課題をより焦点化して取り組む。また「スクールダッシュボード」のデータを活用して、児童が自己調整しながら課題に取り組む学習の定着を図り主体的な学びの質を高めていく。
思考・判断・表現	B	自力解決の時間や練り上げの時間、それぞれの目的を明確にして、個別最適な学びと協働的な学びの運動を図ってきた。また考えに根拠をもたせ説明する活動に取り組んできた。	引き続き継続していく

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られた。言葉の特徴を正しく捉えていないため、使い方を間違えてしまうと考えられる。算数の「データの活用」では、示されたデータから必要な情報を読み取ることに課題が見られる。資料を読み取る活動を大切に、課題に対して正しく活用できるようにしていく。
思考・判断・表現	理科「エネルギー」を柱とする領域に課題が残る。実験結果からエネルギーの性質を見つけたり、物質の動きについて考察したりすることを通して理解することが不十分であると考ええる。仮説を立て検証実験を繰り返すことで性質を見つけやすくさせる、実験結果を図に表すなどの活動を十分とるなどして見えないものを視覚化して理解につなげていく必要がある。また、実験方法を見直したり、実験結果を丁寧に比べたりして科学的な見方、考え方を育てていくことも必要である。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	指導計画を工夫し、知識・技能の定着を図る時間を確保してきた。また個に応じて学習プリントや「ドリルパーク」「スタディサプリ」等多様な方法を活用して習熟を図ってきた結果、算数「数と計算」「図形」領域においてR5年度より向上が見られた。
思考・判断・表現	B	自力解決の時間や練り上げの時間、それぞれの目的を明確にして、個別最適な学びと協働的な学びの運動を図ってきた。また考えに根拠をもたせ説明する活動に取り組んできた。しかしながら、表現力を含む基礎学力の定着が課題であるためBとする。

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	子どもが達成感を味わい、学が楽しさや喜びを感じる授業に取り組んできた結果、全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」では肯定的回答が90%を上回った。今後は、基礎基本の定着を継続させることが課題である。子どもが安心して学べることができる学習環境を整えながら、アクティブラーニング型授業を推進、引き続き「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に運動させていく。
思考・判断・表現	基礎学力の向上を図るためにも、表現力の向上が必要である。本校では、「自分の考えをもち、根拠をもって相手に伝えること」が課題となっている。そのために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の運動をより一層図り、分からなかった問題が伝え合いを経て解けた喜びや友達に自分の考えが伝わったうれしさなどを児童が味わうことを通して、表現力の向上を図る。

※評価
 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)